

葦崎工高新聞

2月号

発行所
葦崎工業高校
新聞委員会

「大きな地震が起こると思う」が約9割

能登地震で地震を身近に感じる

1月1日に発生した能登半島地震は石川県内に大きな爪痕を残し、被害については、今も新聞やニュースで報道されている。今回、新聞委員会で能登半島地震について、生徒1000人にアンケートを行い、地震の時にどこにいたか、どのくらい揺れを感じたか、怖いと思ったかなどについて、調査を実施した。

(遠藤)

能登半島地震発生時に、「山梨県にいたか。それとも県外にいたか」については、「山梨県にいた」が91人、「県外にいた」が9人だった。「具体的にどこにいたか」については、「家」が65人、「親戚の家」が13人、「友だちの家」が4人、「買い物場所」が9人、「その他」で神社などが

9人だった。多くの人が県内で、家族とともに正月を過ごしていたようだ。地震について聞いてみると、「揺れを感じたか」については、「かなり揺れた」が31人、「揺れを感じた」が56人、「揺れを感じなかった」が13人であった。「怖いと思ったか」については、「怖いと思った」が33人、「怖くなかった」が33人、「怖くなかった」が55人、「どちらでもない」が12人であった。「揺れた時にどのような行動をとったか」については、「揺れがおさまるまでじっとしていた」が51人、「すぐに、テレビやスマホで地震情報を確認した」が49人、「安全な場所に避難した」が5人であった。地震当日、揺れを感じた人は約9割

怖いと思った人は全体の3割、少なく、怖くなかったと答えた人の方が約6割が多かった。とった行動では、5割の人が地震情報を確認していたことが分かった。

「今後、山梨県でも石川県のよう大きな地震が起こると思うか」については、「起こる」が88人、「起こらない」が12人であった。「非常用持出袋が家にあるか」については、「ある」が38人、「ない」が51人、「ないが、これから準備する」が11人であった。「家族が離れている時の集合場所が決まっているか」については、「決まってい

備えは不十分

る」が39人、「決まっていない」が55人、「これから決めよう」が6人であった。今後、山梨県でも大きな地震が起こると思う人は約9割だった。非常用持出袋がない人が、集合場所が決まっていない人が約9割と、備えは不十分であることが分かった。

今回の能登半島地震について、「1月1日でもいんながらおめでとや頑張ろうと思う中、亡くなっている人がいると思うと悲しく思う」や「能登の人は元旦からこんなことが起きて、大変だったと思った」など、石川県の被災した方々を心配する声が多かった。

備えの必要性については「スマホの警報アラームは設定しておくべき」や「地震がいつ起きても対応できるように準備をしておきたい」など、これから起こるかもしれない地震に向けて備える意識が強くなったと感じられる意見が多かった。

で後ろ向きに滑る方法などの指導を受けた。1日目、2日目ともに、実習後1時間程度のフリー滑走が行われた。3日目は午前中、フリー滑走を行った。

白銀でスポーツを楽しむ 3日間で友情が深まる

1学年のスキー教室が2月7日から9日までの3泊3日で、長野県志賀高原サンパレースキー場で行われた。1年生131人がスキーやスノーボードを楽しみ、有意義な3日間を過ごした。

望がとられ、未経験者から上級者といった各自のレベルに合わせて、4、9人で班編成が行われた。1日目は午後から班ごとに、現地指導員の方からリフトの乗り方、降り方、初歩的な滑り方の指導などを受け、2日目はカーブの仕方やスノーボード

スキー教室の感想を、石川喜隆さん(1年)は「小・中学校の時に新型コロナウイルスの影響でなくなりました。スキー教室ができて嬉しかったです。スノーボードをしたが、班の人と楽しく3日間、滑ることができた。みんなと一緒にご飯を食べたり、転んでお尻から20分くらい滑り落ちる人もいたり、楽しかった。小・中学校で体験できなかった青春を取り戻せ良かった」、樋川友暖さん(1年)は「スキーをしたが、初心者だったので、最初は怖かった。しかし、2日目は慣れてきて、3日目は全力で楽しむことができた。良い経験になった」と話した。

この3日間でほとんどの人がスキーやスノーボードが滑れやうになり、高校生活の良き思い出になった。(望月)



防災担当の松木先生

災害時の行動について考えて欲しい

本校、防災担当の松木先生は「山梨県にいたか。それとも県外にいたか」については、「山梨県にいた」が91人、「県外にいた」が9人だった。「具体的にどこにいたか」については、「家」が65人、「親戚の家」が13人、「友だちの家」が4人、「買い物場所」が9人、「その他」で神社などが

「学校で地震に遭遇した時に、とって欲しい行動は。」「第一に自分の身を守る行動をとってもらいたいです。落下物や倒れてくるものなどから、身を守る方法を考えてください。教室内であれば当

「車などに注意して、倒れてきそうな壁や電柱などのない広い場所へ逃げましょう」

「特にお願したいのは以下の3つです。①災害時、どのような動きをすればよいか、イメージしておいてください。②どのルートでどこに避難すればよいか、確認しておいてください。③家族との安否確認方法と集合場所を決めておいてください」

「両手が使えないリュックサックなどに、避難の時に必要な物をまとめて入れ、目のつきやすい所に置いておくこと。必要な物の例としては飲料水、携帯ラジオ、衣類、履物、

残り思った▼排ガス規制見直しで、あと2年弱。検討するべきことは多いよう、これからの注目していきたい。(遠藤)



指導を受けながら新雪の斜面を滑る1年生

ニラテク

最近、気になる記事がある。2025年に原付一種が廃止になり、原付免許で125ccバイクが乗れるようになるという。みんなの馴染み深い50ccの原付が販売停止へ▼原付は全国でも約450万台が利用され、通勤、通学、買い物、仕事などで使用されている。本校でも通学時、原付を利用している人は全体で44人、遠方から通っている人の足となっている▼理由は2025年11月より排ガス規制基準が強化され、現在の原付はその基準を満たしていない。新基準をクリアするために、原付の改良が必要だが、技術的に困難で開発費用がかかることから原付の生産や販売は難しくなるようだ▼警視庁は有識者による検討会を開き、昨年12月に有識者検討会は報告書をまとめた。結果、125cc以下のバイクも原付免許で乗れるようにすることを結論づけた▼最初、原付一種が消えるII法定速度30km/h二段階折下がなくなると思いきや、しかし、原付一種の道路交通法はそのまま125ccバイクに適用され、最高出力も原付レベルに抑えたものになると分かり、残念に思った▼排ガス規制見直しで、あと2年弱。検討するべきことは多いよう、これからの注目していきたい。(遠藤)

3年生研究の集大成を発表

生徒研究発表会

研究の成果と課題をまとめる

第19回生徒研究発表会が2月5日、本校体育館で行われ、1、2年生を対象に3年生の各学科代表者が研究の成果を発表した。この会は3年生が集大成を発表する場で、1、2年生は今後の学習や進路選択につなげていく。本来は午後から来賓、保護者を招いて行われる予定であったが、降雪の関係で、在校生のみで、午前に行われた。(小畑)

電子機械科は「ロボコンやまなほに参加して」、電気科は「若年者ものづくり大会に参加して」、情報技術科は「ホームページ制作と3Dプリンタの研究」、環境化学科は「原子吸光分析(河川などに含まれる銅イオンの定量分析)」、システム工学科は「エコカー徹底研究」、制御工学科は「資格取得への取り組みとセニアカーの改造」について、課題研究授業で研究してきた成果を発表。各学科ともに、3年間の努力が実を結んだ発表となった(II写真)。

3年生の「コメント」

○課題研究で大変だったこと
「作業で体力を使うことが多かった。タイヤがパンクしたので、何回もやってみたのが大変だった(砂畑奏太・C科)」
「コードを打ち込んで、実際にWebで実行するのが大変だった(長田空・J科)」

「ロボットの作る作業工程が大変だった。大会に向けての操作練習が難しく、時間が足りなかった(高井健吾・M科)」

○発表会の感想
「一人で発表したのが、スライド操作と発表を同時に行なうのは大変で、とても大変だったが、思ったよりスムーズに発表できて良かった(小澤栄希・E科)」

「1年間やってきたことをしっかりと発表できて良かった。これからも人前で話すことがあると思うので、この経験を活かしていきたい(岡山章太郎・J科)」

「企業のホームページ制作するのはとても大変だった。就職して



「実際のホームページ制作するのはとても大変だった。就職して関係なく、やるか、やらないかが大事。挑戦していかないと欲しい(西山零次・C科)」
「今のうちにWebデザイン3級を取得しておくと良い(中村剣士・J科)」

進路選択 本格化へ 企業・上級学校見学会を実施



企業・上級学校見学会が2月7日、峡北・葦崎地区の企業と甲府商科専門学校で行われ、2年生が各学科に分かれて見学した。この見学会は、身近にある企業や上級学校を知ること、今後の進路選択に役立てることを目的として、毎年、この時期に行われている。情報技術科は午前、日邦プレジジョン(株)を見学し、午後は甲府商科専門学校を見学した。それ以外の学科は午前、午

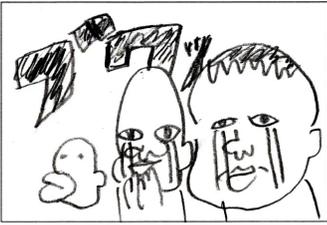
後、それぞれ一企業を見学した(II写真)。
企業見学では、その企業の理念、製造している製品などについて、専門学校で、学校の概要、学科説明について説明や見学をおして知ることができた。
情報技術科の藤原悠介さん(2年)は「実際に企業先や学校を見学して、進路選択に役立てることができた」と感想を語った。(小林)

相手を思いやる気持ちが大事

「教員を目指したきっかけは、人に何かを教える仕事が好きだった(中込楓雅)」
「先生が高校生の時の葦崎工業はどんな雰囲気の学校でしたか(石川喜隆)」
「部活や資格勉強に向かう姿勢が、みんな輝いていました。多少怒られることはあっても、それでも食らいついて頑張るといふ男勝りな生徒が多かった印象(高橋大輝)」
「高校生の時の部活動は、太鼓部。当時部長で、歴代初優勝した時はさすがにうれしかったです(中込楓雅)」
「学園祭はどんな感じでしたか(石川喜隆)」
「あの全校生徒の一体感、男子高生の高貴感でしたね。パフォーミング優勝した1連くまで残って練習頑張りました。準備期間は楽しんで家に帰らなくなりました(中込楓雅)」
「修学旅行はどんな感じでしたか(石川喜隆)」
「沖繩に行き、初日の国際通りでお小遣いほほほ使っちゃった(石川喜隆)」

「資格も部活も、同じ目標に向かえる仲間がたくさんいたのが一番自分の支えになりました。文武ともに全力を注ぐことができ、今の自分があるのもそのおかげです(高橋大輝)」
「私たち、生徒に一言お願いします(高橋大輝)」
「高校時代の仲間は大人になっても仲が良いです。今一緒に頑張っている友達や先輩後輩を、自分のことのように大切にしたいので、よろしくお願いします(高橋大輝)」

卒業式



SDGsの取り組み紹介 バレーボール部編

SDGs(持続可能な開発目標)、地球が抱える問題を解決するために、あなたはどのような取り組みを行っていますか?今回はバレーボール部員の取り組みを紹介します。

- ☆食品ロスに貢献。食事は残さないようにしている。(清水俊平)
- ☆環境に配慮して、ペットボトルとキャップを分別して捨てている。(砂畑詠太)
- ☆節水、節電に心がけている(川村航)
- ☆エコバッグを持って、買い物に行っている。(溝口結生)
- ☆二酸化炭素削減。バイクに乗らず、毎日、自転車に乗っている。(坪木大空)
- ☆コンビニのレジ横の募金箱に募金をしている。(萩原大輝)
- ☆ペットボトルの分別を行っている。(中込楓雅)
- ☆缶、びん、段ボールを資源ゴミ回収場に持って行っている。(石川喜隆)

編集後記

○4コマ漫画を担当。話題を決めるのが大変だった。絵を描いたり、構成を考えたりするのが難しかった。

○初めて、新聞作りに携わった。学校のことや新聞を通して、多くのことを知ることができたのが良かった。

○今まで3年生が中心で、今回初めて、1、2年生で新聞を作った。

編集担当

○記事担当
遠藤陸、小畑翼、小林健治、清田ユキオ(2年)、望月秀一、名取聖也(1年)

○四コマ漫画担当
清田ユキオ(1年)

○写真担当
清田ユキオ(2年)、名取聖也(1年)

協力・深沢琉斗(1年)

できるか心配だったが、形になって良かった。